

SRE

SECRETARÍA DE RELACIONES
EXTERIORES



ドキュメンタリー映画『TAKEDA』上映会

2019年7月23日、東京

メキシコ人映画監督、ヤアシブ・バスケス・コルメナレス監督のデビュー作ドキュメンタリー映画『TAKEDA』（メキシコ、2017年）が日本で初めて、上映されました。映画の主人公であり、1963年よりオアハカに在住、同地の芸術や伝統文化を敬愛する画家の竹田鎮三郎氏の解説のもと、上映がおこなわれました。

『TAKEDA』は7月21日に竹田氏の生地、愛知県瀬戸市の文化センターにて、翌22日は在日メキシコ大使館にての上映となりました。



SRE

SECRETARÍA DE RELACIONES
EXTERIORES



瀬戸市、東京都内いずれの開催においても、多くの観客が来場し、メキシコ国立映画教育センターにより制作された映画作品を鑑賞し、作品のテーマである日本とメキシコの生き生きとしたつながりを目の当たりにしました。



『TAKEDA』はメキシコ文化に深く根ざした日本人画家の目を通じ、人間の普遍性について語った映画です。日本生まれであり、武士の家系出身の画家竹田氏はメキシコ壁画へのアプローチを通じ、古来からの日本のアイデンティティや誇りそして伝統を守ることを自身の本分としています。メキシコでの活動が続けられなか知られざる同国の姿に魅了され、そして色彩、活力、ノスタルジーにあふれたその伝統に自身の過去を重ねています。

竹田氏の語りは、深遠なメキシコ、そして存続の危機にある儀式を重んじる

SRE

SECRETARÍA DE RELACIONES
EXTERIORES



ノスタルジックな世界へと我々を誘^{いざな}います。目まぐるしい現代社会から離れ、

竹田氏は人生そして人間とは何かについて考え、その真髓を探っていきます。

本作品において、芸術家竹田鎮三郎氏は芸術の技法を越え、人間存在をいかに

追及し表現するかを観る者に示しています。
